



建築のスケールとつくり方を考えながら設計しています。設計や研究だけでなく、セルフビルトによる仮設小屋の制作などの活動も行っています。

## 略歴

2015年までの8年間、(有)坂牛卓一級建築士事務所／O.F.D.A.アソシエーツにおいて管理建築士として住宅や児童養護施設の設計に従事。その後、日本工業大学建築学科の准教授に着任し、現在は建築におけるスケールに関する研究や児童養護施設に関する研究、設計活動などをしている。

## 研究紹介

## 建築計画・設計・スケールに関する研究

建築に限ったことではありませんが、モノをデザインし実体化するためには機能的・構造的にバランスよく調整しながらさまざまな寸法を決めることが大切です。それと同時に美しさや快さといった美的観点からも寸法を考える必要があります。こうしたモノの大きさ＝スケールが建築デザインにおいてどのように表現されているかを様々な視点から捉え、建築の設計だけでなくつくり方からも考えるため、セルフビルトによる制作活動なども行っています。

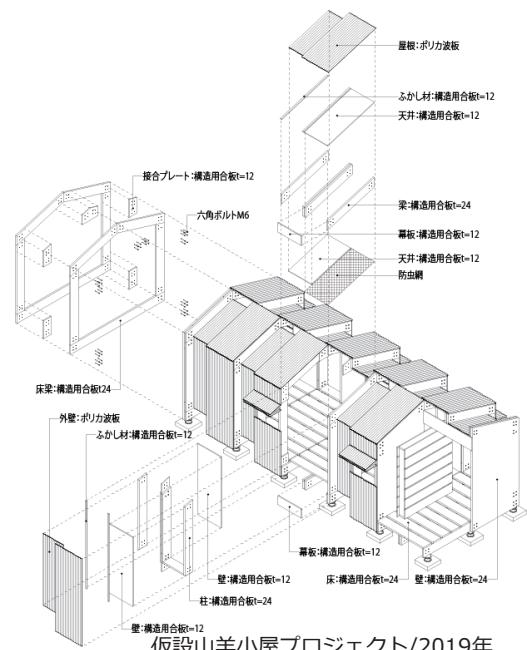


## 主な設計作品・著書

- ・仮設山羊小屋プロジェクト（2019年度日本建築学会大会「北陸」建築デザイン発表会セルフビルトのデザイン部門顕彰、NHK総合首都圏ネットワーク 2018年10月22日放送）
- ・軽井沢トンネル（新建築住宅特集 2017年9月号）
- ・図5建築と都市のグリッド（東海教育研究所 2020年）
- ・図4建築のスケール（東海大学出版部 2018年）

## 所属学会など

日本建築学会  
日本子ども虐待防止学会



- 1) 竹内ほか：建築におけるスケールの概念について、日本建築学会計画系論文集第594号, pp.231-236
- 2) 竹内ほか：現代独立住宅にみられる架構によるモジュールに関する研究、日本建築学会計画系論文集第591号, pp.233-238